㊺ 身近な自然を楽しむ： 群れで咲く美：アジサイ（紫陽花）

Enjoy the surrounding nature: Beauty in bloom in groups: Hydrangea

6/8/2024

吉野輝雄

梅雨入り前の今、アジサイ（紫陽花）の花が近隣の庭先、道路沿い、そして公園内に咲き、見る人々の心を和ませている。鎌倉・長谷寺裏の観音山あじさい路には、2500 株を超える最近アジサイが有名だが、最近、NHK・TV で、あきるの市の山面に紫陽花を植え続いている「南沢あじさい山」に多くの人々が訪れている様子が紹介された。

シーボルト肖像画（川原慶賀筆）

妻 お滝

桜と並びアジサイも日本人の心に触れる花と言えるのではないか？江戸末期、蘭学医として来日したシーボルトは博物（近代植物）学者としての顔ももち、帰国後「日本植物誌(フローラ ヤポニカ)という正確で美しい植物画付きの名著を残した。その中にアジサイを“オタクサ”(Hydrangea)として紹介、その名は日本における妻 お滝そのものである。

シーボルトはアジサイの株を持ち帰り、以後、オランダ、ドイツなど欧州各地で日本由来の花として愛好された。なお、アルカリ性の土壌である欧州では赤色のアジサイが普通だ。その事を以前に自分の目で確かめた。また、ライデン大学の日本学教室を訪れ、「フローラ ヤポニカ」の原著を見せていただいた時の感動は今も鮮明だ。復刻(日本語)版を購入しようとしたが、やはり高価。しかし、数年前、ちくま学芸文庫版が出たのですぐに買った（大場秀章氏の本末の解説は、シーボルト物語として一読の価値あり）。

さて、原産地日本のアジサイの今についての解説が後になってしまった。実は過去の当花アルバムシリーズで２回取り上げた（＊1）ことあるのでご覧頂きたい。

今号は、アジサイが群れで花を咲かせている姿を撮った写真で構成されている。

手毬(まり)形の青や白、赤紫色の種類をホンアジサイと呼び、原種のノリウツギから品種改良された種類をガクアジサイと呼び、アナベルのように西洋で品種改良されたものを西洋アジサイ（ハイドランジア）と呼ぶ。

アジサイは世界中で愛され次々新しい品種が生まれており、2000 種類も存在するそうだ。実際、芦花公園内には、春よ恋や桜坂などの名札付きの新種のアジサイが植えられている。

名前や種類にとらわれず美しい色とかたちのアジサイ（紫陽花）を愛で楽しみたいものです。

＊1 http://www.sengawacx.com/HydrangeaDiversity2020.pdf